

地下水ブックガイド

31. シリーズ近江文庫

台所を川は流れる 地下水脈の上に立つ針江集落

小坂育子 著

新評論 (2010)

P.247

定価 2200 円+税



目次

「カバタ文化」が地球環境問題に問いかけること (嘉田由紀子)

いのちは水 (加藤登紀子)

プロローグ ようこそ「カバタ」へ

1. 未来は過去に

2. 変わらず、変えないで

3. 見残したもの

4. みんなつながっている

5. 便利になったのに、なぜカバタ？

6. 自然の川と隣り合わせの台所

7. 地下水脈の上に立つ針江集落

8. 針江の水がかり

9. 風のうつろい、四季のいろどり

春どなり 春のまんなか

夏どなり 夏のまんなか

秋どなり 秋のまんなか

冬どなり 冬のまんなか

10. 「モッタイナイ」のこころをみんなで

おまけ カバタのつぶやき

あとがき 針江という処

紹介コメント

琵琶湖湖西に位置する高島市新旭町針生集落には、カバタと呼ばれる自噴地下水と水路が融合した水利用システムが各戸を繋いでおり、古くからこれを利用した生活が営まれている。針生の生活を見つめることにより、地下水が、飲用もしくは生活用水といった実利面だけでなく、人と人、人と自然との結びつきを強める上で重要な役割を果たしていることがわかる。水道の発達によって廃れつつあったカバタの価値が再認識され、人々が積極的に保全に関わるまでになった町の歴史も紹介されている。